

かたらいの路羽村草花丘陵～玉川上水ハイキング

開催日：2025年4月5日（土）晴れ やや健脚 歩数：20000歩 距離：約11km

集合：JR青梅線福生駅

コース：福生駅（標高137m）→宿橋通り→長沢公園→新川橋（玉川上水）→永田橋（多摩川）→草花通り→草花神社→大澄山（標高192m）→八雲神社→浅間岳（標高235m 昼食）→羽村神社→旧田中家長屋門→羽村市郷土博物館^{（木）}→羽村堰下橋→多摩川羽村取水堰・玉川兄弟像→水上公園（桜）^{（木）}→雨乞街道→根がらみ前水田（チューリップ）→水上公園→取水堰→玉川上水沿いの桜並木道→田村酒造場→宿橋通り→長沢公園→福生駅

参加者：市村（L） 熊坂（S L） 奥村（S L） 勅使河原 平石 山田 高津佐 永由 亀田 工藤 中西 白田 高橋昇 稲葉 計14名

この日のコースのお楽しみは3つ。一つ目は、多摩川右岸の標高200m前後の緩やかな丘陵、「かたらいの路羽村草花丘陵コース」。ソメイヨシノに始まりパンジー、ハナモモ、アケビ、タンポポ、ニリンソウ、ボケ、ウグイスカグラ、菜の花・・・百花繚乱の草花丘陵ハイキングでした。二つ目は、「はむら花と水のまつり2025」。さくらまつりが3月22日から4月6日、チューリップまつりが4月5日から4月15日、ということで欲張って二つが重なる4月5日に開催。桜は7分咲ほど、チューリップは開花が早い田んぼで色とりどりのチューリップが咲いていました。三つめは玉川上水。羽村市郷土博物館で「玉川上水は、江戸市中へ飲料水を供給していた上水で、1653年（承応2年）に多摩川の羽村から四谷までの高低差92.3mの間に全長42.74kmが築かれた」ことなどを振り返り、羽村取水堰と玉川兄弟像を見学して玉川上水沿いの桜並木道ハイキングを楽しむことができました。



福生駅9時47分～宿橋通り～長沢公園～新橋～永田橋通り

集合は青梅線福生駅、青梅線は立川駅から青梅駅間は10分間隔ほどで運行。青梅駅までは比較的交通便利ですが、青梅駅から奥多摩駅間は1時間に2本ほどの運行になってしまいます。集合時間前の時間を利用して東口駅舎を撮影、西口へ回ると「ふっさ桜まつり、3月15日～4月13日」の横断幕がかかっていました。全員が集合して福生駅西口を9時47分にスタート、西に真っすぐ多摩川方面に伸びる商店街の大通り、緩やかに下って行きます。右に折れて江戸時代から昭和初期まで福生の中心地だった宿橋通り、今はすっかり住宅街になっている道を歩き長沢公園に入ります。奥村サブリーダーのリードでストレッチ、市村リーダーがコース説明。再び大通りに出て、少し下って奥多摩街道を横切り玉川上水に架かる新橋を渡ります。大通りを多摩川方面に向かうところに「永田橋通り」の標識が出ていました。



永田橋～満開のソメイヨシノ～あきる野市入り～草花通り～パンジー花壇の公園

多摩川に架かる永田橋へ、対岸上流にこれから歩く羽村丘陵が見えます。長い永田橋を対岸の河川敷橋上に差し掛かったところに、下から大きなソメイヨシノが伸びてきていて満開、幸先良し。橋を渡り切ったところはあきる野市、永田橋の信号を渡り急石段を上ります。草花通りに出てパンジーの花壇のある小さな公園へ、大分汗ばんできて衣類調整と水分補給の小休憩。公園の片隅にレンギョウの花が咲き誇り、アスファルト道の隙間からはタンポポがたくましく茎をのびし黄色の花を咲かせていました。



草花通り～ハナモモ・アケビ～草花神社～タンポポ・ニリンソウ

草花通りを西へ進み、右に曲がり草花神社参道に入ります。熊坂サブリーダーが、民家の庭に咲く花を「ハナモモよ」と教えてくれました。次の家の庭には紫色のアケビなどなど、花にうとい私でも春を感じさせてくれる通りです。歩いて行く先に草花神社の石段参道と小さな本殿が見えてきました。この日二つ目の階段、急峻な石段を慎重に上って、上り切った高台で水分補給をして一息つきます。南方面眼下にあきる野市市街地と丘陵地帯、その奥遠くに丹沢山塊が見え一番左に大山の稜線がくっきりと展望できました。大澄山をめざして、少し上り道です。ここにもタンポポ、ニリンソウが群生していて春たけなわです。



大澄山（標高192m）～八雲神社 ボケ ウグイスカグラ 菜の花

草花神社を出て5分ほどで標高192mの大澄山の東屋が見えてきました。標柱のローマ字読みで、「おおすみやま」ではなく「だいちょうざん」が正式名称だと分かりました。山頂北側斜面眼下に多摩川、その先に羽村の市街地が見えました。ここからは下りです、「せっかく上ったのに下るの」の声が聞こえてきました。木段を下りると八雲神社に出ました。赤とピンクが入り混じったボケの花、小さなピンクの花を咲かせているウグイスカグラ（鶯神楽）、畑には菜の花がまだ黄色の花を咲かせています。多摩川沿い自動車道の歩道を歩いて行くと、民家の庭先に黄色い柑橘がたわわに実をつけていました。



再び丘陵歩き～ミツバツツジ～アセビ～ | 11時45分浅間岳（標高235m）

羽村大橋手前のところで山道に入って再び丘陵歩き。少し上ると朝日山能見堂の鳥居に差し掛かりましたが、ここは右の巻道を進みます。立川国際カントリー倶楽部脇の道を上って行きます。見晴らしの良いところに出て後方を眺めると羽村大橋を走って行く自動車が見えました。左手にはゴルフ場が広がり浅間岳まで続きます。紫色のミツバツツジ、鈴のような白い花をいっぱい咲かせたアセビ（馬酔木）の花が目を和ませてくれます。熊坂さんが「馬が葉を食べると酔ってしまうところから馬酔木と名づけられた」と話してくれました。浅間岳まであと200mの道標を通過、11時45分に標高235mの浅間岳に到着しました。



昼食タイム ヤマブキ ヤマツツジ ミツバツツジ | 2時15分~羽村神社

山頂ベンチでは、私たちと同年代の先客グループ3組ほどが昼食中でした。クラブの女性4人グループは東屋の下の見晴らしの良いベンチで昼食タイム、風が少し出て来て食事が終わるころには肌寒くなって来ようです。東屋下の寒暖計は15度丁度でした。山頂周辺も花盛り、黄色のヤマブキ、橙色が青空に映えるヤマツツジ、この日何度も見てきた紫のミツバツツジなど。集合写真を撮影して12時15分、羽村市郷土資料館に向けて下山開始。山頂直下の羽村神社へ、展望所からは眼下の多摩川、下山してから向かう水上公園と根がらみ前水田、羽村市街地が一望できました。羽村神社からの展望写真は羽村市パンフレットから。



羽村神社～旧田中家長屋門～ | 2時35分 羽村市郷土博物館

緑豊かな沢沿いの山道を下って行きます。日常と離れて自然と親しむ丘陵歩き、「やっぱり山は良いな」の聲が聞こえてきました。バードウォッチンググループが、カワセミ狙いでしょうかカメラを据えていました。手すりのない木橋を渡ります。3歳ぐらいの子どもが、家族連れで元気に駆け上がってきました。旧田中家長屋門へ、ここまでが「かたらいの路羽村草花丘陵」ハイキングコース。ソメイヨシノも満開、12時35分に羽村市郷土博物館に到着。トイレ&博物館見学休憩、館内展示で多摩川の変遷などの歴史を振り返って中庭へ。中里介山ゆかりの赤門や旧下田家住宅が展示されています。縁側横並びの集合写真を撮影。



博物館 | 3時～多摩川右岸～羽村堰下橋～左岸～玉川兄弟像～羽村取水堰

13時、博物館を出て多摩川右岸の堤へ。青い空に白い雲、桜は満開、ゆったりと下流方面へ歩きます。「河口から5.4km」の標柱を通過、羽村堰下橋を渡ります。午後から風が強くなり帽子がとばされそうです。左岸の堤へ出て玉川兄弟の像が立っている広場へ。庄右衛門・清右衛門兄弟は、玉川上水完成の功績により玉川の姓と帯刀を許されて200石取りの武士の身分に取り立てられました。羽村取水堰の水門へ、多摩川の水が取水されて玉川上水となり武蔵野台地へ流れていきます。



水上公園・はむら花と水のまつり～三春の滝桜・七分咲きのソメイヨシノ

取水堰を出て水上公園の「はむら花と水のまつり」会場へ入ります。入り口のところに地元のお店のテントが出ていて、柏餅をお土産に購入。堤を進んでいくと羽村市福島県人会から贈られた満開の三春の滝桜が出迎えてくれました。まだ若木のように、この場所でこれから何年桜まつりを見ていくのでしょうか。ソメイヨシノは、都心より気温が低いせいかわまだ七分咲き程度。対岸のソメイヨシノの方が見応えがあったでしょうか、それでも桜の下では「花より団子」グループの楽しそうな宴が続いていました。堤を下りて「真夏の日でりが続くと裸でこの街道を通り、丸山下にある淵へ行き雨乞いをした」という雨乞街道に入ります。



雨乞街道～根がらみ前水田～水上公園～取水堰～玉川上水沿いの桜並木道

雨乞い街道を進んでいった先が根がらみ前水田です。チューリップの咲き具合はどうか、チューリップまつりの期間に合わせて田んぼごとに開花状況を調整しているのか、開花が早い田んぼは、黄、赤、白と色とりどりのチューリップが咲いています。あぜ道を歩いてチューリップを堪能、春の風をいっぱい吸い込んだ鯉のぼりが勢いよく泳いでいます。堤に戻り水上公園の催し会場で小休憩、「はむら花と水のまつり」会場を後にして羽村取水堰へ下ります。取水堰から玉川上水に取り入れた水が勢いよく流れています。時刻は14時16分、取水堰を出て玉川上水沿いの桜並木道を下流へ歩いて行きます。



玉川上水沿いの桜並木道～田村酒造場～長沢公園～ | 5時20分福生駅

玉川右岸を下流へ、時折多摩川が右手に見え隠れします。桜を楽しみながら玉川沿いを羽村大橋まで進んできました。取水堰を出て30分ほどウォーキング、田村酒造場の煙突が見えてきました。右に曲がって趣のある黒塀の道を歩き、田村酒造場へ。門前に井戸が残されていて「文政五年創業」の木看板が掲げられていました。日本酒展示販売所に入り、「特別本醸造幻の酒」四合瓶を1本購入。社長と思われる人から「良かったら庭を通って福生駅へ向かったら」と勧められて、玉川上水を敷地内に取り入れた手入れの行き届いた庭園を通らせていただきました。宿橋通りに出て旧田村家住宅を道路から眺めて、長沢公園に入りクールダウンをしました。最後の一步きをして、予定した時間よりかなり早い15時20分に福生駅に到着。歩数2万歩、距離11Km、晴天に恵まれたやや健脚コースでした。



(市村記)